

断酒 みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
事務局
呉市 押 込 5-12-25
渡部 憲方
郵便番号 737-0915
電 話 33-5571
発行人 渡部 憲
編集代表 曾根 敏浩
印 刷 松広印刷機



呉みどり断酒会「創立 43 周年記念例会」会場、呉みどりヶ丘病院にて



『初心』

常任相談役 田中正直

私達の呉みどり断酒会は、去る二月に創立四十三周年記念例会を無事催すことが出来ました。

これは多くの先達が絶ゆまぬ精進により今日迄引き続けて呉れた御蔭と、何にもまして現呉みどりヶ丘病院、院長、長尾澄雄先生の会発足以前からの御指導と御支援の賜であり、更に全国の断酒会の仲間の支えにより、現在在る事を決して忘れるものではなく、感謝の至りであります。

私事、二十四歳にして酒色の虜になり借金まみれ、夜逃げ同然の家出、大阪近辺で土方人夫の飯場から果ては西成での立ちん坊生活焼酎代欲しさに売血、カスバの生活に何ら異和感も無く只その日暮らしの四年間、心は荒び平気で悪事もやっていた自分です。故郷呉へ帰った夏の日、両親は黙って受け入れて呉れたが飲酒量はエスカレート、正に狂気の沙汰が続いた三十九歳、長尾先生との縁を頂き

命を救って頂き、その断酒会に導いて頂き、例会に出席する事のみ集中、その内自分に眠っていたと思われる道徳感情を呼び覚ます事が出来始めた。歳月の経過に伴い過去のあの不条理な時代の事を忘れがちになって居り、断酒生活もマンネリ化、創立記念会で「初心」を思い起こしていた。

飲酒の為に家庭や社会から自分の立場を失い、人間としての価値観とはざまで苦悩した、その為現実逃避の為のアルコールが、薬物、毒物に変っている事さえ気付かず高価な代償を余儀なくされて来たのです。精神的、肉体的、社会的に深い傷跡を残して来たのが自分の実体なのです。断酒の継続は出来て居ても、一期一夕にして酒によって歪曲した自分の人格の修復は個人の力では到底不可能です。断酒例会の中での修養が必須なのです!! 常に心しながら精進したいものです。

呉みどり断酒会創立43周年記念例会

体験発表



鍋山茂美
(家族)

た。私は誰にも言えず、一向に良くなならない主人を遠くで見ているしかありません。先の見えない不安で、毎日の通勤途中、車の中でもいつも泣いていました。

それまでの私たちの結婚生活は決して良くありませんでした。

皆さん、こんにちは。呉みどり断酒会、家族の鍋山茂美です。お世話になります。呉みどり断酒会創立四十三周年記念おめでとうございます。そしてこの記念すべき日に体験発表の機会を与えて頂きありがとうございます。

主人は三年前に顔の表情がなくなり、食事をする事、会話も出来なくなる「うつ状態」になりました。左腕の麻痺があったので脳外科で診察しました。そこでは異常は無く、精神科に行き、自律神経失調症と診断されました。仕事を休む事にためらいがあったので二週間ごとに診断書を書いて頂き、その都度説得して会社に提出しました。しかし主人は落ち込んで、自分はどうだめだと泣いていまし

た。私は悲しくなりましたが、主人を説得して、学校に連絡しました。校長先生が主人に、穏便にして欲しいと言われ、何もなかったようになりました。しかしそれから息子は、クラスのみんなから口を聞いてもらえない、いじめに合いました。あの時私たちが、正しい行動を取っていれば、息子はいじめられなかったと思います。

私は、本当に胸が痛み悲しかったのですが、主人はあまり感じてないようで、いつも、大酒を飲んでいました。

家の中はいつも喧嘩をして、子供にもよくありませんでした。そんな主人と、いつか離婚したいと思うようになり、子供が大きくなり、私がしっかり働けば離婚できると思っていました。

そんな気持ちの中でうつ状態になった時、「今まで、何もしてくれないかったのに」そんな気持ちで逃げ出したくなりました。息子は就職試験の最中で、クラスで自分だけ二回も滑り、落ち込んでいました。息子に迷惑をかけない為に主人の病気を治さなければいけないと思いました。

それから半年過ぎた頃、体調も



少しずつ良くなり、仕事にも行けるようになりました。そんな頃主人は、好きだった酒を飲みたいと言いだしたので、かかりつけの精神科の先生に相談したところ一、二杯なら良いということでした。

しかしそれから、主人はおかしくなりました。言動、記憶、目つきも変で、痴呆になったのかと先生に相談しましたが、違うと言われました。まだ、酒が原因とわからなく、酒を二杯以上飲んでないか、監視するようになりました。私は、仕事をしていたので、夕方酒をたくさん飲んでないか仕事場から電話をしたり、息子に見ても

らったり落ち着かない毎日でした。

娘は、飲酒運転する主人に「犯罪者の娘にせんといて」と泣いて、息子も主人の情けない姿に「父さんと別れよう」と言い出しました。

私は、離婚したら他人になれるけど、「子供にこの姿のままの父親で終わらせてはいけない」と思いました。

病院に行き、アルコール依存症と診断され賀茂台地断酒会に繋がりました。

半年過ぎた頃、主人は「断酒を続けるから、例会に行かない」と言い、私は甘く認めてしまいました。

去年の二月、飲んでいたのを見付けたので今度は、みどりヶ丘病院に連れて行き、みどり断酒会に繋がりました。それでも本人は、隠れて飲んでいました。

そして、四月に近所の人が、主人が道で倒れている事を教えてくれました。

車で行く、目はすわり、フラフラしていました。それでも、私と目が合った瞬間、ポケットからワンカップの空を池に投げ込みました。車に乗せ、家に着いたので、倒れて動きません。病院に

連絡して、また車に乗せるのですが、大きい体で力いっぱい抵抗するので、大変でした。近所にも恥ずかしくかったです。

病院に行き、院長先生に「どれくらい飲んだか」と聞かれましたが、

本人は「飲んでいません」とうそぶき、入院となりま

した。もう、お酒は、飲んではいけない

と、わかつていたのに飲んでしまった主人に、裏切られた思

いで、いつばいでした。子供や会社に迷惑をかけ、周りのことを考えない、そんな主人が



悲しくなりました。身体に風が通りぬける感じがしました。

涙が、ずっと出て、「私が、いるから甘えているのではないか」と思

い、居なくなつた方がいいのかなと思いましたが、入院すると、会社のこと入院費、生活費のことを考えました。

ある日息子の前で、入院費のことを思わず口にしてしまうと「ぼくの貯金下ろ

して、使つていいよ」と言ってくれ、嬉しかったです。こんな事が

ありました。息子の貯金には、手を着けずに済みました。少しして、娘から、泣きながら電話がありました。父親がみどりヶ丘病院に入院したことを、心無い上司が、興味本意で何回も聞いてくるそうです。

娘は、「父さんや、母さんが悪いわけじゃないから」といいながら泣いていました。私は、何も言えませんでした。本当なら、「その上司が悪い」と言うはずですが、主人が酒を飲まなければこんな思いをさせなくてすんだのだと、私は責任を感じました。

電話の最後に娘に「ごめん」と言いました。

主人の見舞いに行くと、「アイヌが食べたい」とか、「どうしたら早く退院できるか」とか、自分のことばかり言っているのに、腹が立ちました。病氣と向き合い、治すことより、早く出ることしか考えてなく、子供や会社にどれぐらい迷惑かけたか考えない主人に、情けない思いでいつばいでした。そのころは、普通の生活をしている人が幸せそうで、私もそんな普通の生活になりたいと思いました。

それから、主人は、私が調べたアルコール依存の資料を見て、病

気を認めてくれるようになりまし
た。私は、いつも主人を責め、主
人の気持ちを分かちあげようと
せず、「自分だけ頑張っている」と
いう間違った考えがあることに、
気がつきました。

七月に退院してから、以前は口
も利かなくなつた息子ですが、今は、
主人と一緒にテレビを見て、会話
をする事もあります。何より、息
子の顔が、穏やかになつてきたと
思います。娘もいつも気にかけて
くれ、感謝しています。親が子供
に、心配をかけて本当に、申し訳
ない気持ちです。

私たち夫婦は、まだお互い気持
ちのズレがあり、何もかも良いわ
けではありません。悩むときに、
助けられたのは、断酒会、その家
族の方、院長先生のお話を聞かせ
ていただいたおかげです。

一人では、幸せになれないこと
を、教えていただきました。そし
て主人と向き合つて行こうと思ひ
ます。いつか、「この病気になつて、
良かった」と思えるようになりた
いです。これからも、どうぞご指
導、よろしくお願いします。

最後まで聞いていただきありが
とうございました。



廣野幸則
(本人)

皆様こんばんは。何時もお世話
に成つています。何処かの例会に
出席させて頂いた時に、あなた達
は奥さんにご飯を作つて頂いた時、
何時も有難うと、言つていますか
という日常ありふれたテーマのお
話を聞いたことを思い出しました。
他の人とか、友達に作つて貰うと
必ず有難うと言えるのに、一番大
事な人に有難う、と言えない自分
にハツと気がつきました。何時も
感謝の気持ちを持つ事を改めて感
じました。

さて今度、創立四十三周年記念
例会で、発言の場を頂き大変あり
がとうございます。まだまだ多く
の断酒の先輩から見ますと、ほん
の僅かの間酒が止つている私です
が、酒との出会い、それからアル
コール依存症になり現在までにつ
いて、簡単に話をさせて頂きます。
振り返つて見るとわき目も振ら
ず真正直にアル中の道を進んでき
たと思います。私は酒もタバコも
二十歳になるまで一際手をつける

事有りませんでした。私にとりまし
て、その事が良いとか悪いとかで
はなく、私の周り、環境が、酒
タバコに無縁だったからです。家
にもおそらく酒も置いて無かつた
と思います。また家族にも親戚に
も少し前の自分の様な大酒飲みは
居なかつたと思います。

私が酒とタバコに目覚めたと言
うか初めて口にしたのは、家をで
て学生生活を始めた時からです。
四畳半の裸電球が似合う学生アパ
ートに入りました。この頃はこれ
が普通でした。このアパートには、
二十三人の学生ばかりの住人が居
ました。

今の様にプライバシーが問われ
る事も無く、殆んど鍵も掛けず、
他の人の部屋への出入りも自由、
そればかりか置いて有る酒タバコ
の持ち主の承諾もなく拝借する等
もお互い様と思つていました。ア
パートとは名ばかりで、まるで体
育会系の合宿所のようなでした。そ
れこそ毎晩の様に何処かの部屋で
大宴会が繰り広げられていました。
宴会に参加しなければ、へんこつ
もの、かたぶつとか言われていま
したので、当然のように毎晩毎晩
と飲んでいました。

私の学生時代は、歌で言えば、
フォークソングの全盛時代で吉田
拓郎、かぐや姫、小椋佳さんが活
躍し始めたときでした。またこの
頃は学生運動の盛んな時で、全学
連、全共闘、赤軍等、今では想像
も出来ない活動家の人がいました。
昨年来インフルエンザで学校の休
校が相次いでいますが、その当時
は、学生運動で全学閉鎖、全学休
校も少なく有りませんでした。本
来、学生は勉強する事が本業と思
いますが、学校閉鎖では勉強どこ
ろでは有りませんでした。学内で
は、戦争の様にと言うより正に戦
争状態でした。負傷者も多くでて
いたと思います。私は貧乏学生で
したから、アルバイトに精を出し
ました。

ここから先が問題なのですが、
アルバイト代の行方は、皆様の想
像のまま、当然の様に飲み食いに
回りました。私は特別、美食家で
も有りませんので別に特別美味し
いもので無くても腹一杯食べれば
良く、安い酒でも目一杯飲めれば
満足でした。毎日アルバイト代を
日給で貰い、帰り道、餃子の王将
で当時百円の餃子を食べ、なぜか
酒屋で買うより安いビールで喉を

潤し、本当は、喉を潤す位で無く
て、浴びる程飲み、行きつけの酒
屋で一升瓶を買い、アパートに帰
るとお決まりの宴会、これの繰り
返してした。

話が前後しますが、初めて飲酒
で気を失ったのは、京都円山公園
の夜桜の宴会でした。桜の季節は、
数万人の人が夜桜見物で酒を飲み、
日に何台もの救急車が、急性アル
コール中毒で倒れた酔っぱらいの
為に出動していたと思います。そ
の殆どが、私の様に家を離れて初
めて大酒を飲んだ学生だと思いま
す。

その当時は、自分の限界も知ら
ず、まして自分の酒が周りの人に
迷惑を掛ける事等思いもしません
でした。幸い私は救急車にその時
は乗らずに済みましたが同じアパ
ートの住人は、何人かお世話に成
りました。こんな酒漬けの学生生
活ですから、今の自分が容易に想
像できると思います。それでも、
当時、休肝日なんて思いもしませ
んでしたが、酒を飲まずに勉強を
する事も有りました。何とか四年
間で卒業出来たのもある意味奇跡
的かも知れません。

無事卒業後は普通のサラリーマ

ンに成りました。入社し暫らくす
ると、営業職に就きました。この
時先輩の方に、営業の基本は商品
を売るのでは無く自分自身を売り
込む事と
教えられ
ました。

営業の基
本だけで
無くすべ
てに渡り
この事は
その通り
と今でも
思ってい
ます。

もう一つ
教えられ
た事が有
ります。
これで今
の私が有
るのです
が、酒が
飲めない
営業は営
業で無い。
こちらはずいぶん自分
勝手に自分の良いように拡大解釈
したものだとなりに思っています。



この教えは忠実に守ったと言うよ
り、とことん酒の勉強をさせて頂き
ました。学生時代から培った酒の
量は半端で無く皆様の想像道理の
量をこな
しました。

酒飲みの
勝手な解
釈で自分
の良い風
に捉える
事は何時
も忘れま
せんでし
た。会社
に出す接
待交際費
申請書は
多い方が
たくさん
仕事をし
ていると
思い二十
数年続け
ました。
辛い交際
費について多いとか少ないとか言
われる事は有りませんでした。こ
れも自分なりの解釈で本当はそう
では無いと思います。まあその甲

妻有り自由奔放に飲んで飲み続け
アルコール依存症と成った自分が
有ります。
飲んで居る時は、この飲んでい
る期間が随分長いのですが、飲め
ない人間は出来ない人間とまで思
う事も有りました。飲めない人達
に本当に失礼な事を思っていたと
今は反省しています。飲む事の効
果、飲めばお互いに正直な自分が
出し合える。これ程単純で純粹な
付き合いは無いと思いました。
この事も酔って自分を失って
いる事が多く本当の自分では無かつ
たと反省しています。長い飲酒生
活で多くの失敗を繰り返して来ま
した。大酒飲みの私が思うのです
から、本当は自分の思うよりも遙
かに多いと思います。

その一つをお話します。ある正
月明けの初出勤の事です。毎年恒
例の社長の年頭挨拶、その後一杯
だけお酒が振る舞われるのですが、
一杯の積りが他人の分まで喜んで
引き受け飲んでしまいました。役
員以上の方は別室でその後も新年
会が有るのですが、間違えてその
中に乱入し飲み続けてしまいました
。翌日酔いも醒めやらぬ朦朧と
しながら出勤すると当然ながら上

司にこつぴどく怒られました。前日の途中から記憶が無くてただひたすら頭を下げ時間が過ぎるのを待つばかりでした。

周りの人に迷惑を掛け申し訳なく思い、もう上手に飲もうとしましたが、これで終わる訳有りません。その後も飲み過ぎで迷惑を掛ける事度々です。これ以上飲んだら本当に身体も神経もずたずたに成ると思い初めても飲酒の習慣とは恐ろしいものでそれでも、止まりません。周りの人からも飲み過ぎよ、朝から酒臭いと言われても控えて飲む事も有りませんでした。後になり、なんで本気で酒を止めてくれなかったんかと思う時もあります。本当は周りの皆が止めていたと思います。

酒飲みの私は、自分が何時も正しいと思ひ、周りの人の忠告にも耳を傾ける事もせず、今に成り反省する事ばかりです。こんな私ですから特に飲めない人には、迷惑を掛けたと思います。飲めない人にも酒の席に無理やり出させ、三時間も四時間も酒臭い息を吹きかけながら大声で馬鹿話を続けてきました。その人達にとんでもない時間と金の浪費をさせたと思ひ申

し訳無く思っています。私自身の時間と金の浪費は自業自得と諦めています。本気でどうしたら酒が止まるかと考えるように成っても知らず知らずのうちに酒屋に走り、コンビニに走り、自販機にコインをいれる。自分で自分に言い聞かせても身体が、手が、自然と酒に手を伸ばし口に運んでしまう。飲酒時代の末期には、酒を飲んで薬に成るのはほんの一瞬、その後嘔吐、下痢の繰り返し。もう駄目と思ひました。『馬鹿は死ななきゃ治らない。』そんな言葉が浮かんで来ました。

その追いつめられた時、当病院、みどりヶ丘病院に辿り着きました。今でも入院の直前直後の事をはつきりと覚えていません。どんな治療をうけたのか……でも現在の私はここに元気でいます。院長先生をはじめ病院関係者の方には大変お世話になりました。改めてお礼を言わせていただきます。有難うございました。

反省しても昔掛けた迷惑はとにかえしがつきません。でも苦しかった飲酒末期を思い出せば断酒の思ひは強く成ります。それでも自分の意思の弱さは痛い程分つてい

ます。酒の無い世界にいないと断酒は出来ませんでした。

おかげ様で私にとりまして長い病院生活、酒の無い世界、ここで断酒が始まりました。入院中に断酒の事も勉強させて頂きました。酒会と同時に断酒会に入会しました。この先断酒継続は一人では出来ません。皆様と共に断酒継続を行います。その為の例会出席、一日断酒。これからも宜しくお願ひします。

今日、発表の機会を頂き本当に有難うございました。いつも有難うという感謝の気持ちを持ち続けたいと思います。



呉みどり断酒会の仲間達と



笹尾靖子
(アメリシスト)

本日は、呉みどり断酒会創立四十三周年、誠にとおめでとうございます。

私は、呉みどり断酒会アメリシスト 笹尾靖子です。

私は、六年前の二月二十一日に、この呉みどりヶ丘病院に主人に頼んで入院させて頂きました。入院する日の朝も、ビールを三缶飲み、自分で「もう、駄目だ。」という諦めの気持ちでの入院でした。入院前の半年間が、私と私の周りに居た家族、私の両親、弟にとつて一番苦しい日々だったと思ひます。その時の事をお話したいと思ひます。

私は、朝起きたら、まず酒を飲み、朝食や娘達の弁当を作り、パートに行っている時は仕事に行っていました。酒の事が気がなつて仕事にはなりません。断酒運動も毎日の様に、何の罪悪感も無くやっていました。飲まない時は、あまり運動は得意ではないのですが、飲むと気持ちが大き

きくなり、何か勘みたいいなもので運転していました。

酒を飲み、自分の実家へ電話をかけ「子供が言う事を聞かないとか、わけのわからない事を言ったり、今から行くから。」と言ひ、親になだめられ、何とか、その時は、行くのを止めました。家の外で二女と、もみ合いになり鍵を取り上げられ隠された事もありました。そんな私の様子を心配し、眠れない夜を過ごし、高速を走つても二時間半位かかる道を、週に二回も弟の運転で母と二人で家に来てくれた事がありました。「そんな事じゃ、いけないじゃろう。子供がおるのに酒ばかり飲んで。酒止めるんよ。」と言われ、「わかつた。もう止める。」と口先だけで言つたと思います。残つた焼酎を流しに捨てたりもしました。あの時は、母と弟にとつて、大切な時間とお金を使い、うちに来て、私と家の中の状態を見て、「何で、こんな事になつてしまったのか。」主人が単身赴任している留守の家庭を守らないといけない母親なのに、いったいどうなつていいのかと思うと腹が立つやら情けないやら。離れているから、どうする事も出来ず、ただ心配する毎日

だつたらうと思います。それでも止めない私に、「実家へ来てはどうか。」と言つてもらひ、二人の娘を呉の家に置いて、一カ月間、実家で世話になりまし

た。それは私にとつては、苦しい毎日でした。酒が切れてくると気持ちが悪く落ち込み、じつとしいられなくて、家の中をうろろろしたり、かと言つて何もする気にならず、いつも母のそばにくつついて、子供の様に母に手をつないでもらつて寝た事もありました。



その日の朝は、さすがに飲まずにいましたが、常に焼酎が入つていた状態だったので、完全な酒気おび運転だつたと思います。着いた

時の私の顔を見て母は、「どうしたん、その顔は。情けないね。」と言ひました。私の顔は、パンパンにむくんで、色は赤黒くなつて、いるのを見たら、ううううのうううのと思ひます。でも、それから、何の文句も言わず生活させてくれました。父は、私が子供の頃から大変に厳しく、酒が唯一の楽しみで、でも沢山飲むと暴れたり物を壊した

りした事もありました。そんな父も、飲んではいけない私につき合つてくれていました。そんな日々が一カ月程経ち、皆、「もう、これで私は、酒は飲まないだろう。」と信じたと思ひます。でも、そんなに甘いものではありませんでした。勿論、一カ月も娘達に迷惑かけたんだから、「酒は、もう飲めない。飲んじやいけない。」と思つていました。でも、我慢できたのは、たつた二カ月半でした。主人に届いた歳暮のビールを見ると、私の中の飲みたい虫が、何の罪悪感もなく開けて、あつという間に飲みました。正月早々、主人の実家へ行くつても何一つ嫁らしい事もできず、

主人の妹家族が来ているのに、酒のせいで、体がしんどくて、横にならなければ居られませんでした。今、思い出しても恥ずかしいやら、情け無いやらです。周りの皆は、まさか、酒で具合が悪くなつて、いるとは思わなかつたと思ひます。正月休みが終わわり、主人は、単身赴任先の北九州へ戻りました。それからは寝、起きては飲む。動けない。家の中は、ぐちゃぐちゃ、何も出来ない状態になつていきまし

た。飲んで大声を出し、娘と言いつ合っているで、隣のご主人が心配して、二度程、うちに来て、「阿賀に、アルコールの病院があるから、奥さん入院した方がいいよ。」と言ってくれた事があつたそうです。その家の息子さんが、呉みどりヶ丘病院の看護師さんだったから、すすめて下さったのに私は、「すぐ、入院する。」とは言わず、「もう一度、チャンスが欲しい。」と言つて、主人の単身赴任先へ行く事になりました。やつとの思いで着いた私は、「今度こそ止めなければ、又、娘達に迷惑かけているし、淋しい思いをさせているんだから。」と思ひながら、主人の所で、ながいながな一日を、一日一日過ごしながら、一週間程経つた頃、私が買い物に行く様になつて、三日目くらいに、スーパーのビール売り場の前で立ち止まり、「飲みたい。飲んじやいけない。」と数秒見ていました。買つてしまいました。帰つてすぐ、二、三本飲みました。空き缶を隠し、次に飲む為のビールを隠していたけど、主人に見つかり「何の為にここに来とるんか。子供ら二人、留守番しとるんじやろうか。」と言ひながら、頬をたた

かれました。最近聞いた話ですが、娘達は、「母さんは、多分、父さんの所へ行つても飲むけん、その時は、たたいでも分らせんといけんと思う。」と言つていたらしいです。娘達は、お見通しだったので。それでも、チャンスをくれたので。なのに又、私は裏切りました。北九州から呉に帰り、入院になつたわけです。どれだけの時間、私の酒で家族を巻き込み、振り回し、私の両親、弟の生活を乱し、心配をかけてきたか、どうやつても償う事など出来ません。

その半年間、長女は、十七歳、二女は、中学一年生でした。一番の被害者は、二女だつたと思ひます。中学に入学し、色々なやりた事が沢山あつたと思ひます。勉強、スポーツ、友達との色々な楽しい事。

私が入院してからも、随分淋しい毎日を送っていました。入院中に送つてくれた手紙の内容も次第に変化しています。「母さん、要る物があつたら言つてね。」とか。

入院五日目には、「母さんの手紙読んだら、すごい涙がたまつて…。でも、姉ちゃん、頑張つとるのに泣いたらいけないから我慢して

ます。姉ちゃんが出掛けて一人になつて、すぐ涙が出て、今も涙が止まりません。友達にも言えないし、一人で泣いています。学校は、あまり楽しくないよ。」

入院六日目、「母さんからの電話待つてます。毎日、電話を楽しみにしています。いつか、母さんの病院に、チャリで行くから楽しみにしとつてね。」

主人が、呉に転勤させてもらつてからの五月初め。「ゴールデンウィーク帰れますか。うちは、ゆつくり出来るよ。この頃、学校で嫌な事があるんよ。じゃけん嫌だ。母さん、まだ退院出来んの。うち、色々悩んでるけん、家事やるの、ちよつと…。早く退院してね。」そんな手紙をも

らつても、私には、その時は、どうする事も出来ませんでした。ただ、絶対に酒を止めなければいけない。もうこれ以上、自分の酒で家族を苦しめたくない。と心から思ひました。でも、止められるだろうか。もし、又、飲んだらどうしよう。という不安な気持ちが強くなり、退院日が五月二十八日に

決まつてから退院までの一週間程、微熱が続きました。そんな時、院長先生に断酒会をすすめて頂き

した。とにかく酒を止めたいだけの気持ちで翌、二十九日に呉みどり断酒会に入会しました。何もわからないから、先輩の言われる通りに、例会、呉みどりヶ丘病院の特院、大会、学校、研修会とずっと続けていくうちに、あんなに苦しかった、酒を飲まない。という事が、不思議と飲まずに普通の生活を送る事が出来ています。それは、決して自分一人の力ではなく、呉みどり断酒会の先輩、仲間、家族の方々は勿論、広島断酒会の方々、月一回出席させて頂いております、アメシスト例会の先輩、仲間、他の断酒会の方々、沢山の方のおかげです。

入会後におこつた色々な出来事



呉みどり断酒会の友と

寄付者御芳名

(十一月度)

呉 渡部 憲様 一〇、〇〇〇円
 呉 山本一義様 三、〇〇〇円
 感謝箱 一、六〇三元

(十二月度)

呉みどりヶ丘病院院長
 長尾澄雄様 六〇、〇〇〇円
 呉 藤川芳文様 五、〇〇〇円
 呉 山本一義様 五、〇〇〇円
 感謝箱 一、九八六円

(一月度)

感謝箱 二、〇七七円

(二月度)

呉 山本一義様 一〇、〇〇〇円
 感謝箱 二、三七三元

創立43周年記念御祝・御芳名

呉みどりヶ丘病院
 院長 長尾澄雄様 一〇、〇〇〇円
 長尾正久様 五、〇〇〇円

山根文字様 五、〇〇〇円
 田代時弘様 五、〇〇〇円
 河崎千鶴様 三、〇〇〇円
 佐藤正明様 三、〇〇〇円
 住吉秀則様 三、〇〇〇円
 沖本静彦様 三、〇〇〇円
 嘉藤貴美子様 三、〇〇〇円
 澤崎眞一様 三、〇〇〇円
 石川尚子様 三、〇〇〇円
 水本満知子様 三、〇〇〇円

広島国際大学

岡田ゆみ様 三、〇〇〇円

呉 田中正直様 三〇、〇〇〇円
 呉 高路忠文様 一〇、〇〇〇円

新入会員紹介

●呉市西中央四一―一十八 高井 行雄
 ●呉市東川原石町十一―五 安岡 利勝

断酒継続おめでとう

☆一年 中島 和明 11月29日
 島本 辰馬 2月28日
 ☆二年 春日世津子 1月12日

行事予定

- 4月11日 第45回中国断酒ブロック(米子)大会
- 4月18日 (米子市公会堂大ホール)
- 5月8〜10日 第45回四国断酒ブロック(高知)大会
- 5月8〜10日 (高知市文化プラザかるぼーと)
- 5月22〜23日 第66回松村断酒学校
- 5月22〜23日 (本山町プラチナセンター)
- 6月13日 第16回山口県断酒セミナー
- 6月13日 (山口県セミナーパーク)
- 6月21日 第40回広島県断酒(黒瀬)大会
- 6月21日 (黒瀬文化センター)
- 7月3〜4日 第40回全断連通常総会
- 7月3〜4日 (晴海グランドホテル)
- 8月27〜29日 第40回山陰断酒学校
- 8月27〜29日 (ホテル大山)
- 9月3〜4日 第9回鳥取県断酒会一泊研修会
- 9月3〜4日 (ホテル大山)
- 9月3〜4日 (松江市玉湯町公民館)

平成21年11月～平成22年2月度例会動員数

行事名	回	正会員	継続会員	賛助会員	他会員	院内会員	77-セナ	合計
土曜例会	15	473	167	86	780	1,141	190	2,837
水曜例会	15	476	202		11			689
ブロック例会	3	41	21					62
新家族の集い	4	48	17					31
特別院内断酒	4	7						7
断酒宣言	4	88	29					117
断酒友の会	1	14	4					18
第19回中国ブロック断酒セミナー	1	28	8					36
第14回ふくやま一泊研修会	1	5	2					7
第28回山口県合同断酒会	1	8	3					11
第43回酒なし祭感謝会	1	7	2					9
新年合同初例会	1	31	14					45
第33回愛媛県断酒会	1	37	14					51
呉みどり断酒会創立43周年	1	5	3					8
断酒会役員会	1	36	13					49
断酒会役員会	3	14						14
呉みどり断酒会役員会	4	27						27
合計	65	1,345	530	86	791	1,141	190	4,083

【平成二十二年 役員】

常任相談役(監査) 田中正直
 相談役 宗政 貢
 会長 渡部 憲
 副会長兼事務局長 西村 好登
 理事(進行) 石橋 剛
 理事(編集、行事) 曾根 敏浩
 理事(会計、事務局) 笹尾 靖子
 理事(行事) 佐伯 忠
 理事 廣野 幸則